

2011年11月2日 説明会

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

中計最終年度に向け収益基盤を強化する

—12/3第2四半期の実績と通期見込—

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

【連結業績サマリー】

第2四半期の実績 1

通期見込 2

【加工食品事業】

第2四半期の実績と通期見込:売上高 3

第2四半期の実績と通期見込:営業利益 4

コスト上昇は限定的。下期も増収効果や生産性改善などで吸収する 5

チキン加工品は販売、生産ともに期初の計画通り進捗 6

ベトナムのアセロラ原料調達と中国の加工食品販売を強化する 7

【水産・畜産事業】

変動する市場で在庫圧縮を進め、加工品拡大で収益を維持する 8

【低温物流事業】

第2四半期の実績と通期見込 9

TC受託は温度帯の幅を広げ、更なる拡大を目指す 10

東扇島の集荷が進む。旺盛な需要を受け二期棟に着手。 11

欧州の経済環境は悪化するも食品物流は順調に推移 12

【参考資料】

データ集 13~18

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「年初見込」は2011年5月10日に発表した見込を、
‘E’、「見込」は2011年11月1日に発表した見込を、
‘P’は2010年5月11日に発表した中期経営計画を示している。

連結業績サマリー：第2四半期の実績

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	第2四半期(累計)				
	実績	前年同期間比		年初見込比	
		増減	率	年初見込	増減
加工食品	869	61	8%	820	49
水産	327	-18	-5%	307	20
畜産	376	-8	-2%	381	-5
低温物流	748	46	7%	730	18
不動産	26	-9	-26%	25	1
その他	29	-2	-5%	30	-1
調整額	-109	3	-	-115	6
売上高合計	2,266	74	3%	2,178	88
加工食品	26	1	3%	7	19
水産	4	-3	-39%	2	2
畜産	3	3	579%	3	0
低温物流	37	-2	-6%	32	5
不動産	12	-7	-35%	11	1
その他	2	0	10%	0	2
調整額	-0	2	-	-1	1
営業利益合計	83	-6	-7%	54	29
経常利益	78	-8	-9%	47	31
当期純利益	42	-9	-18%	27	15
EPS	14円	-3円	-16%	9円	5円

1. 売上高：加工食品や低温物流が好調に推移し前年比3%の増収。
2. 営業利益：不動産の賃貸ビルの契約更改が響き前年比6億円の減益。年初見込比では加工食品や低温物流が想定を上回り29億円の大幅増益。
3. 経常利益・当期純利益：当期純利益は投資有価証券評価損などにより前年比9億円の減益。
4. その他：
 - ① 自己株式の取得・・・10月末時点(累計)で中計目標株数1,500万株のうち1,064万株を取得。
 - ② 社債の発行・・・長期の安定資金確保のため200億円を発行。

【震災影響】

	年初見込(年計)		第2四半期(累計)		震災影響の見込との比較
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
水産	▲39億円	▲1億円	▲5億円	影響なし	震災後の需要減少は想定より軽微
畜産	▲16億円	▲1億円	影響なし	影響なし	東北の鶏肉生産の回復が早く想定より軽微
低温物流	▲25億円	▲3億円	▲12億円	▲2億円	復旧が早く想定より軽微
合計	▲80億円	▲5億円	▲17億円	▲2億円	

* 下期の震災影響は見込まない

連結業績サマリー：通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	第3・第4四半期(累計)						通期					
	見込	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比			
		増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減		
加工食品	871	60	7%	820	51	1,740	121	7%	1,640	100		
水産	328	5	1%	344	-16	655	-13	-2%	651	4		
畜産	359	-39	-10%	378	-19	735	-48	-6%	759	-24		
低温物流	752	60	9%	756	-4	1,500	106	8%	1,486	14		
不動産	25	-6	-20%	26	-1	51	-15	-23%	51	0		
その他	31	-1	-2%	33	-2	60	-2	-4%	63	-3		
調整額	-112	-10	-	-113	1	-221	-6	-	-228	7		
売上高合計	2,254	68	3%	2,244	10	4,520	142	3%	4,422	98		
加工食品	24	3	15%	29	-5	50	4	8%	36	14		
水産	2	3	-	4	-2	6	0	1%	6	0		
畜産	3	-1	-19%	4	-1	6	2	55%	7	-1		
低温物流	36	2	7%	38	-2	73	0	0%	70	3		
不動産	9	-8	-48%	10	-1	21	-15	-41%	21	0		
その他	2	0	-14%	2	0	4	-0	-4%	2	2		
調整額	0	0	-	-1	1	0	2	-	-2	2		
営業利益合計	77	-1	-1%	86	-9	160	-7	-4%	140	20		
経常利益	71	-4	-6%	79	-8	149	-12	-8%	126	23		
当期純利益	39	50	-	43	-4	81	41	100%	70	11		

ROE	7%	4%	6%	1%
EPS	27円	14円	23円	4円

1. 売上高：下期も加工食品と低温物流が全体を牽引し、通期で前年比3%の増収を見込む。
2. 営業利益：下期も加工食品と低温物流が引き続き前年を上回るが、不動産の減益が響き、通期では前年比7億円の減益を見込む。
3. 経常利益・当期純利益：当期純利益は前年の特別損益（退職給付制度改定損など）の影響がなくなり、通期では前年比41億円の大幅増益を見込む。

加工食品事業

<加工食品事業>

第2四半期の実績と通期見込:売上高

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	実績	第2四半期(累計)				第3・第4四半期(累計)				通期						
		前年同期間比		年初見込比		前年同期間比		年初見込比		前年同期間比		年初見込比				
		増減	率	年初見込	増減	見込	増減	率	年初見込	増減	見込	増減	率	年初見込	増減	
売上高	加工食品 計	869	61	8%	820	49	871	60	7%	820	51	1,740	121	7%	1,640	100
	家庭用調理品	258	25	11%	240	18	256	9	3%	249	7	514	34	7%	489	25
	業務用調理品	398	22	6%	390	8	407	12	3%	407	-0	805	34	4%	797	8
	健康価値	29	2	9%	30	-1	25	3	15%	29	-4	54	6	12%	59	-5
	その他	184	11	7%	160	24	183	37	25%	135	48	367	48	15%	295	72

◆上期の状況

1. 全体

家庭用を中心に、昨年下半年からの増収傾向が継続し前年比8%の増収。新商品投入効果、昨年からのTV番組での露出増加や震災後の購買行動の変化(顧客層拡大、内食化傾向)などが影響していると思われる。

2. 家庭用調理品

伸長するマーケットを上回って推移し前年比11%の増収。中でもチキン加工品、調理野菜、米飯類が好調。

3. 業務用調理品

主力のチキン加工品やコロッケが中食需要の高まりを受けて順調に推移し全体では前年比6%の増収。

4. 健康価値

アセロラ原料販売が順調に推移し前年比9%の増収。

5. その他

GFPTニチレイのタイ国内でのムネ肉や副産物の販売額が含まれる。

◆通期の状況

1. 全体

家庭用、業務用では昨年下半年からの伸びが一巡するが増収傾向は続く。全体では通期で前年比7%の増収を見込む。

2. 家庭用調理品

チキン加工品、米飯等の定番品が継続寄与し下期も前年比3%、通期では前年比7%の増収を見込む。

3. 業務用調理品

中食市場向けのチキン加工品の拡販を中心に下期で3%、通期では4%の増収を見込む。

4. 健康価値

好調なアセロラの原料販売に加え、ウェルネス食品の販促効果を見込み、下期で15%、通期では12%の増収を見込む。

5. その他

通期で前年比15%の増収を見込む。GFPTニチレイ稼働本格化に伴いタイ国内販売が増加することが主因。

第2四半期の実績と通期見込：営業利益

加工食品営業利益の対前年比増減要因

単位：億円

	第2四半期(累計)		第3・第4四半期(累計)		通期	
	実績	年初見込比	見込	年初見込比	見込	年初見込比
前期営業利益	25	-	21	-	46	-
減益要因	-14	14	-12	8	-26	22
原材料・仕入価格上昇	-11	7	-9	11	-20	18
タイ工場稼働遅れによるコスト増加	-2	4	-2	-4	-4	0
その他	-1	3	-1	1	-2	4
増益要因	15	5	15	-13	30	-8
価格改定等・原材料仕入改善	5	0	8	-16	13	-16
チキンなどの増収効果	5	2	3	2	8	4
生産性改善	3	2	2	1	5	3
固定費削減	2	1	2	0	4	1
当期営業利益	26	19	24	-5	50	14

◆上期の状況

1. 前年比1億円の増益。年初見込比では19億円の増益。
2. 原材料・仕入価格などのコスト上昇はあったものの年初見込は下回っており、家庭用調理品を中心とした増収効果と生産性改善などの吸収策の進捗でカバーした。

◆通期の状況

1. 下期は前年比3億円の増益を見込む。通期でも4億円の増益に。
2. コスト上昇については今期は限定的と見込まれるため、上期と同様の施策で吸収を進める。

コスト上昇は限定的。下期も増収効果や生産性改善などで吸収する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

コストの上昇と吸収策について

単位：億円

課題と打ち手		第2四半期(累計)		第3・第4四半期(累計)		通期	
		実績	年初見込比	見込	年初見込比	見込	年初見込比
コスト 上昇要因	原材料価格の上昇	-4	4	-3	5	-7	9
	チキン加工品仕入価格の上昇	-5	3	-4	5	-9	8
	その他加工品仕入価格の上昇	-2	0	-2	1	-4	1
	計	-11	7	-9	11	-20	18
当年度で対応する 吸収策	価格改定・規格変更	-	-	3	-15	3	-15
	商流費の見直し	3	-1	3	-1	6	-2
	原材料仕入方法見直し	2	1	2	0	4	1
	計	5	0	8	-16	13	-16
中期計画で想定した コスト削減策	生産性改善	3	2	2	1	5	3
	固定費の削減	2	1	2	0	4	1
	計	5	3	4	1	9	4

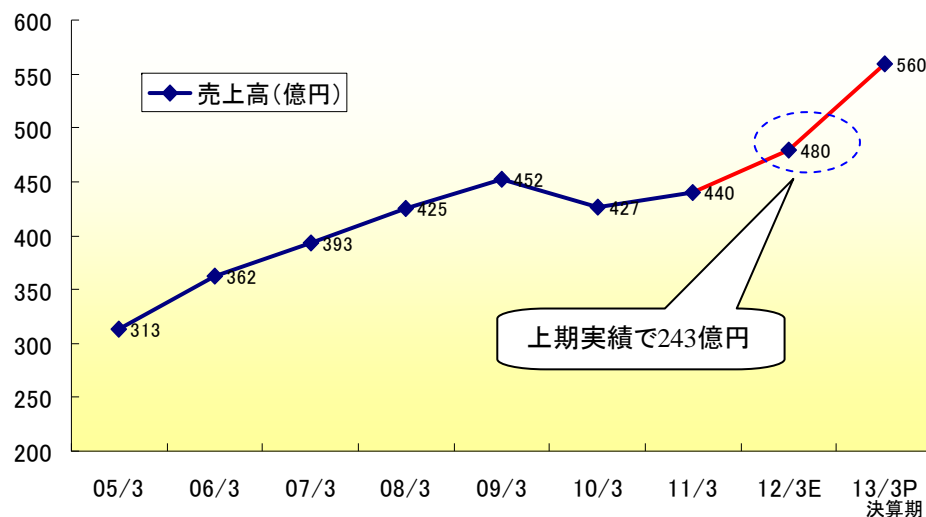
1. 上期はチキン加工品、食用油などの価格が上昇。下期はこれらに加え米などの上昇も見込まれるが、コスト上昇は全体では年初見込を大きく下回る見通し。
2. このため下期に実施を予定していた価格改定は必要最低限の対応にとどめ、期初から継続している生産性改善や固定費削減、商流費の見直しなどで吸収を図る。

<加工食品事業>

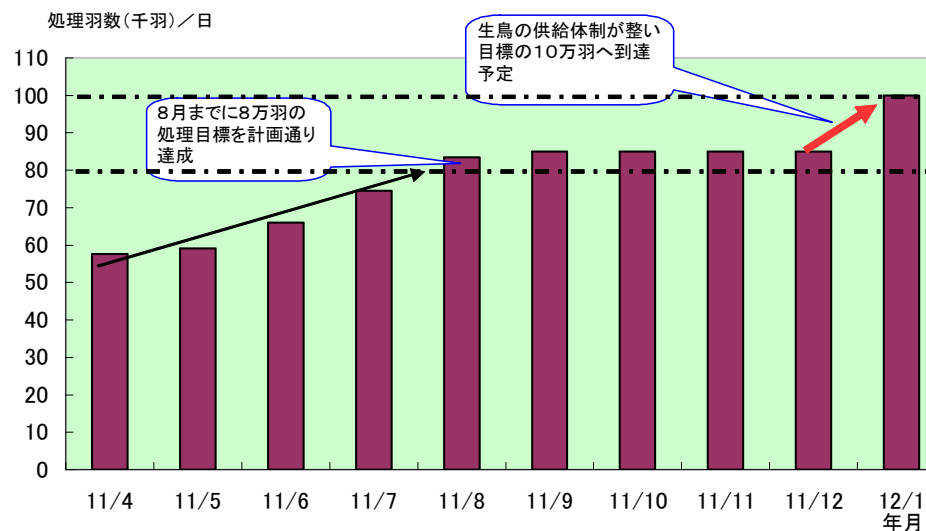
チキン加工品は販売、生産ともに期初の計画通り進捗

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

当社チキン加工品販売金額推移(日本国内)



GFPTニチレイの生鳥処理羽数の推移



1. 上期の成果

- ①国内のチキン加工品需要は引き続き旺盛で、年間計画売上高480億円に向けて順調に推移。
- ②GFPTニチレイのスローターの稼動は8月に計画通り処理羽数8万羽/日に到達。GFPTの鶏舎増設により生鳥の供給体制が整う2012年1月を待って処理羽数10万羽/日の体制へ。

2. 下期の打ち手

- ①欧州向けのムネ肉加工品の販売を10月より本格化し、今期中に売上高4億円を見込む。
- ②現状タイ国内で販売している未加熱のムネ肉や副産物を、加工品に使用する割合を高めることで収益性改善を図る。
- ③スローターハウス従業員の定着率や作業習熟度を高めて生産性の改善を図る。

* 現時点ではタイ洪水の影響は見込んでいない。

<加工食品事業>

ベトナムのアセロラ原料調達と中国の加工食品販売を強化する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**



1. アセロラ原料の調達強化

- ①アセロラ原料の品種改良・栽培ノウハウの普及を進めるため、2011年8月にベトナムに新会社を設立。
- ②日本国内での好調な販売に加え、欧州で天然ビタミンCの需要が強いため、ブラジルに次ぐ主要産地であるベトナムでの原料調達力を強化する。
- ③ブラジルの研究農園で培ったノウハウを投入し、ベトナムでアセロラ果実の品質面での差別化を図る。

2. 中国国内販売の強化

- ①大手ファーストフードチェーンへの販売に向けて取組みを実施中。
- ②農産加工品の生産および販売を目的として泰安佳裕食品を設立した(2012年夏開業予定)。日本の品質管理基準で生産された製品の一部を今後需要の高まる中国国内で販売する。

水産・畜産事業

変動する市場で在庫圧縮を進め、加工品拡大で収益を維持する

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

		第2四半期(累計)					第3・第4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比	
			増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減
水産	売上高	327	-18	-5%	307	20	328	5	1%	344	-16	655	-13	-2%	651	4
	営業利益	4	-3	-39%	2	2	2	3	-	4	-2	6	0	1%	6	0
畜産	売上高	376	-8	-2%	381	-5	359	-39	-10%	378	-19	735	-48	-6%	759	-24
	営業利益	3	3	579%	3	0	3	-1	-19%	4	-1	6	2	55%	7	-1

1. 水産事業

- ① 上期は震災影響、かに・魚卵・えびの供給減などにより前年比5%の減収。営業利益も減収が響き前年比3億円減益だが、年初見込は上回る。
- ② 下期は資源不足・産地高によりえび、たこ、かに等の商材が不足する中、慎重な買付けに徹し在庫リスクを最小化する。またユーザールート向けには最適加工度の商材提案と密着営業の徹底による取扱いの拡大を目指す。その結果売上は前年並みを確保、営業利益は商品の収益性維持に加え前年の貸倒引当金などの影響がなくなる事もあり3億円の増益を見込む。通期では2%の減収、微増益へ。

2. 畜産事業

- ① 上期は震災に端を発する国産チキンの供給減や国産ビーフの風評被害の影響で2%減収となったが、営業利益は口蹄疫や猛暑などのコスト上昇要因に苦しんだ前年を上回り3億円の増益。
- ② 下期は輸入チキンの国内相場下落に伴う収益性悪化により苦戦するが、国産の生鮮チキン・ポークの調達管理を徹底してマイナス幅の縮小につとめる。また純和鶏などのこだわり素材や加工品のユーザールートへの販路拡大に注力する。その結果下期は10%の減収、1億円の減益に。通期では上期の増益分が寄与し6%の減収、2億円の増益へ。

低温物流事業

第2四半期の実績と通期見込

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

		第2四半期（累計）					第3・第4四半期（累計）					通期				
		実績	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比	
			増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減
売上高	低温物流計	748	46	7%	730	18	752	60	9%	756	-4	1,500	106	8%	1,486	14
	物流ネットワーク	413	29	8%	399	14	415	30	8%	416	-1	828	59	8%	815	13
	地域保管	233	10	4%	230	3	228	14	7%	230	-2	461	24	5%	460	1
	海外	95	16	20%	93	2	96	11	13%	98	-2	191	27	16%	191	0
	その他・共通	7	-8	-54%	8	-1	13	4	42%	12	1	20	-4	-16%	20	0
営業利益	低温物流計	37	-2	-6%	32	5	36	2	7%	38	-2	73	0	0%	70	3
	物流ネットワーク	13	-1	-10%	12	1	15	3	28%	14	1	28	2	7%	26	2
	地域保管	22	-1	-6%	20	2	20	1	5%	23	-3	42	-1	-1%	43	-1
	海外	6	2	53%	4	2	4	1	32%	5	-1	10	3	43%	9	1
	その他・共通	-4	-1	62%	-4	0	-3	-3	570%	-4	1	-7	-4	155%	-8	1

◆上期の状況

1. 全体

売上高は各事業とも増収で全体でも前年比7%の増収。営業利益は2億円の減益だが年初見込を上回る。

2. 物流ネットワーク

8%の増収、1億円の減益。センター新設による輸配送、通過高の増加が売上・利益両面に寄与。利益面では震災影響を吸収しきれず減益となるが年初見込は上回る。

3. 地域保管

4%の増収、1億円の減益。震災影響は年初見込より小さく売上高は拠点新設効果もあり増収となったが、営業利益は償却負担もあり減益に。

4. 海外

20%の増収、2億円の増益。為替影響はあるが、前年度のゴドフロア買収効果に加え既存事業も順調に推移。

◆通期の状況

1. 全体

通期で売上高は8%増収、営業利益は前年並だが年初見込を3億円上回る見込み。上期同様、海外と物流ネットワークがけん引する。

2. 物流ネットワーク

8%の増収、2億円の増益を見込む。TC新設効果の継続が寄与。下期の震災影響は見込まない。

3. 地域保管

5%の増収、1億円の減益を見込む。下期は引き続き償却負担が重い、震災影響がなくなり1億円の増益に。

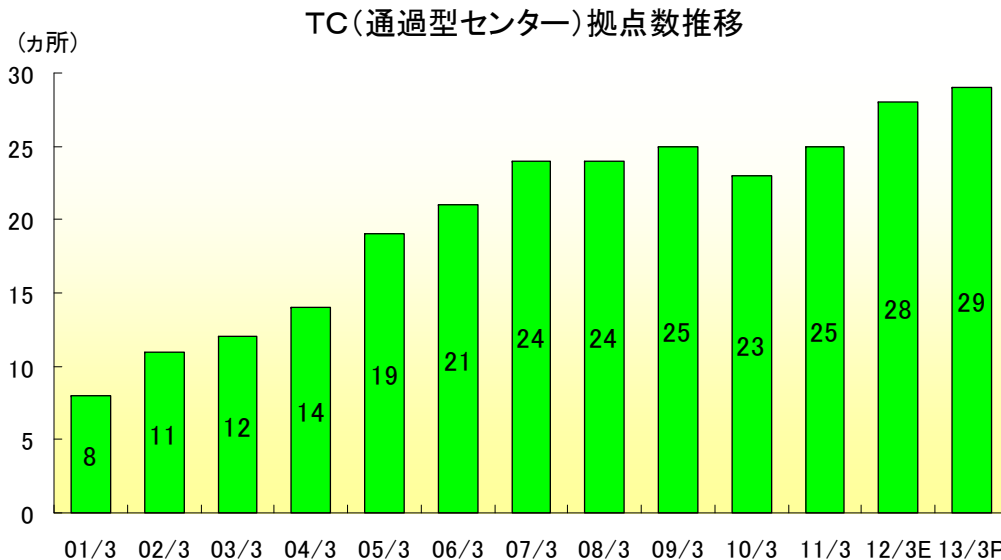
4. 海外

16%の増収、3億円の増益を見込む。下期で買収効果は一巡するが、既存の保管、運送拠点が引き続き寄与する見込み。

TC受託は温度帯の幅を広げ、更なる拡大を目指す

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. TC(通過型センター)の受託件数見込は、期初想定通りに進捗している。
2. 前年度から取り組みを開始したドラッグストアのセンターで常温貨物の取扱いをスタート。今後は「チルド+常温」の複数温度帯の取扱いを増やし通過高の拡大を図る。
3. 運送は、既存ルート効率化によって改善した収益性を武器に地域保管の既存顧客などの足回りを獲得し、グループ全体での中長期的な運送収入拡大を図る。具体的には産地発貨物の流通量が豊富な北海道・九州、物量が多く拡販余地の大きい関東・関西を中心に対応を進める。

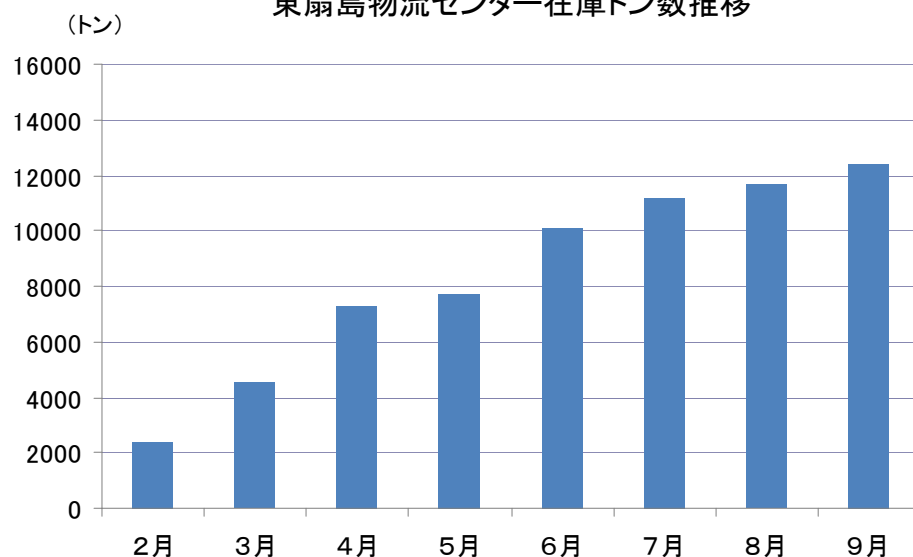


東扇島DCの集荷が進む。旺盛な需要を受け二期棟に着手。

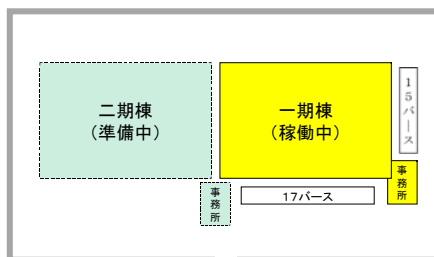
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. 東扇島DCの集荷は順調に拡大している。今後は集荷拡大と並行して人員配置や作業内容の最適化を進め収益の最大化を図る。
2. 良好な立地と最新の設備を兼ね備えた東扇島DCへの保管需要は旺盛で、2013年に稼働予定の二期棟も視野に入れた対応を進める。
3. 東扇島DCの拡充を機に首都圏の保管貨物の再編成を進め、各倉庫の特性を生かした更なる物流効率の向上を図る。

東扇島物流センター在庫トン数推移



東扇島物流センターの主要設備



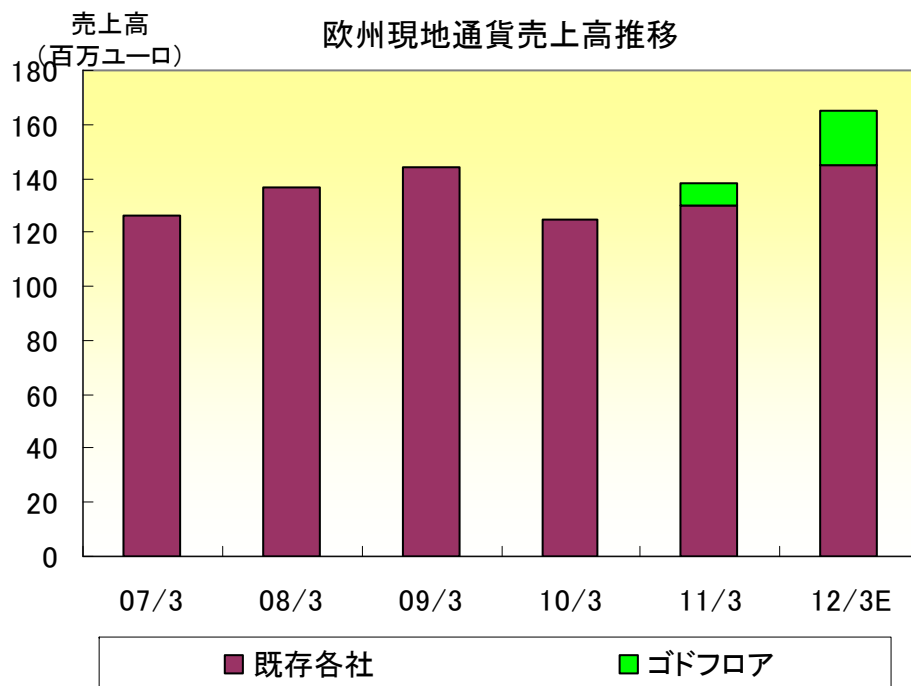
<二期棟の概要>
設備能力約4万トン
投資額約58億円
2013年上期稼働予定
一期棟とあわせて
約8万トン規模となり
国内最大級の設備に

<東扇島地区の位置づけ>
東扇島地区は
日本最大の設備能力を
誇る低温食品流通の
中心地

欧州の経済環境は悪化するも食品物流は順調に推移

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

1. ユーロ安により連結業績への為替換算上の影響はあるものの、現地通貨ベースの売上高は好調だった09/3月期を上回る見通し。中でも果汁を中心に扱うHIWA社は搬入が活発で能力いっぱいの運用が続いている。
2. 欧州危機については取扱い品目が食品中心で景気の影響を受けにくいこと、南欧には基幹拠点がなくなどから現時点では目立った影響は受けていない。
3. 今後はグループ各社間の交流を強化することで、顧客共有や共用物流施設の整備などの協業を推進していく。



<海外事業 新たなトピックス>

1. ポーランド (FLP)
8月より大手量販店との取り組みがスタート
新たな安定収入の柱に
2. オランダ (HIWA)
果汁の保管需要が旺盛なため、10月に増設着工
来春稼働予定で保管能力は約1割増に
3. 中国 (上海鮮冷)
第二センターは10月着工、来春より稼働予定
既存設備と合わせて保管能力は約3倍に

參考資料

2012年3月期第2四半期 連結業績サマリー

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第2四半期(累計)					第3・第4四半期(累計)					通期				
	実績	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比		見込	前年同期間比		年初見込比	
		増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減		増減	率	年初見込	増減
加工食品	869	61	8%	820	49	871	60	7%	820	51	1,740	121	7%	1,640	100
家庭用調理品	258	25	11%	240	18	256	9	3%	249	7	514	34	7%	489	25
業務用調理品	398	22	6%	390	8	407	12	3%	407	-0	805	34	4%	797	8
健康価値	29	2	9%	30	-1	25	3	15%	29	-4	54	6	12%	59	-5
その他	184	11	7%	160	24	183	37	25%	135	48	367	48	15%	295	72
水産	327	-18	-5%	307	20	328	5	1%	344	-16	655	-13	-2%	651	4
畜産	376	-8	-2%	381	-5	359	-39	-10%	378	-19	735	-48	-6%	759	-24
低温物流	748	46	7%	730	18	752	60	9%	756	-4	1,500	106	8%	1,486	14
物流ネットワーク	413	29	8%	399	14	415	30	8%	416	-1	828	59	8%	815	13
地域保管	233	10	4%	230	3	228	14	7%	230	-2	461	24	5%	460	1
海外	95	16	20%	93	2	96	11	13%	98	-2	191	27	16%	191	0
その他・共通	7	-8	-54%	8	-1	13	4	42%	12	1	20	-4	-16%	20	0
不動産	26	-9	-26%	25	1	25	-6	-20%	26	-1	51	-15	-23%	51	0
その他	29	-2	-5%	30	-1	31	-1	-2%	33	-2	60	-2	-4%	63	-3
調整額	-109	3	-	-115	6	-112	-10	-	-113	1	-221	-6	-	-228	7
売上高合計	2,266	74	3%	2,178	88	2,254	68	3%	2,244	10	4,520	142	3%	4,422	98
加工食品	26	1	3%	7	19	24	3	15%	29	-5	50	4	8%	36	14
水産	4	-3	-39%	2	2	2	3	-	4	-2	6	0	1%	6	0
畜産	3	3	579%	3	0	3	-1	-19%	4	-1	6	2	55%	7	-1
低温物流	37	-2	-6%	32	5	36	2	7%	38	-2	73	0	0%	70	3
物流ネットワーク	13	-1	-10%	12	1	15	3	28%	14	1	28	2	7%	26	2
地域保管	22	-1	-6%	20	2	20	1	5%	23	-3	42	-1	-1%	43	-1
海外	6	2	53%	4	2	4	1	32%	5	-1	10	3	43%	9	1
その他・共通	-4	-1	62%	-4	0	-3	-3	570%	-4	1	-7	-4	155%	-8	1
不動産	12	-7	-35%	11	1	9	-8	-48%	10	-1	21	-15	-41%	21	0
その他	2	0	10%	0	2	2	0	-14%	2	0	4	-0	-4%	2	2
調整額	-0	2	-	-1	1	0	0	-	-1	1	0	2	-	-2	2
営業利益合計	83	-6	-7%	54	29	77	-1	-1%	86	-9	160	-7	-4%	140	20
経常利益	78	-8	-9%	47	31	71	-4	-6%	79	-8	149	-12	-8%	126	23
当期純利益	42	-9	-18%	27	15	39	50	-	43	-4	81	41	100%	70	11

2012年3月期第2四半期 連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	11/9	11/3	増減		【主な要因】
〔資産の部〕					
流動資産	1,081	1,031	49	①	① 流動資産は売上の増加や季節的要因により売掛金およびたな卸資産が増加。震災後に手元流動性確保のため積み増した現金及び預金58億円を取り崩し。
固定資産	1,784	1,813	-29	②	
資産の部合計	2,865	2,845	19		
〔負債・資本の部〕					
流動負債	926	1,103	-177	③	② 固定資産は前期の設備投資の減価償却も進み有形固定資産が23億円減少。
固定負債	747	564	183	③	
負債の部合計	1,673	1,668	5		③ 長期の安定資金確保のため社債を200億円発行。短期借入金、コマーシャルペーパーがそれぞれ86億円、100億円減少。
純資産の部	1,191	1,177	13	④	
(うち株主資本)	1,158	1,150	8		
有利子負債	970	969	0	③	④ 自己株式の取得による18億円の減少を含む。
(うちリース債務除く)	736	724	11		
科目	11/9	10/9	増減		
設備投資額	46	99	-53	⑤	⑤ 第2四半期の設備投資の主なもの 鹿児島曾於DC
(うちリース資産除く)	35	89	-54		
減価償却費	74	67	6		
(うちリース資産除く)	55	49	5		

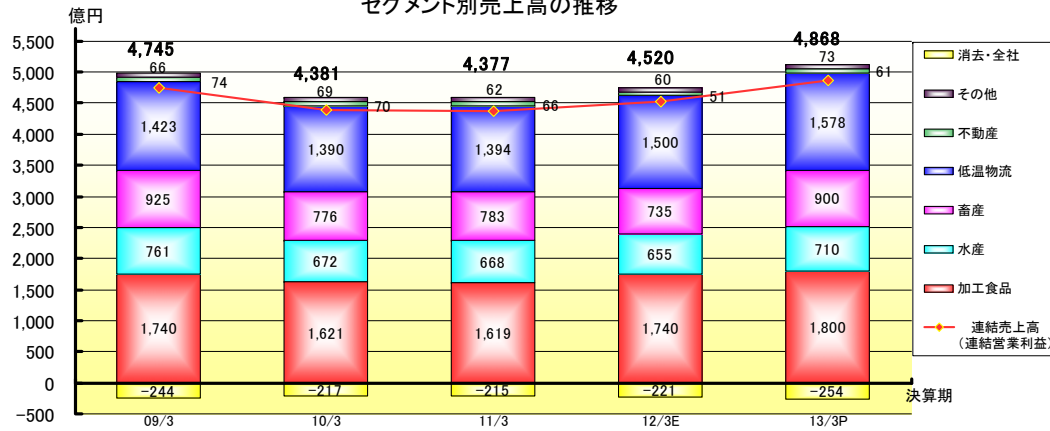
2012年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

単位: 億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第2四半期(累計)					通期		
		11/9	10/9	増減			見込	前年同期間 比増減	年初見込 比増減
【営業外収支】		-5	-3	-1	【営業外収支】		-11	-5	+3
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-2	-3	+0	金融収支		-10	+0	+4
【特別損益】		-7	-5	-2	【特別損益】		-7	+65	-2
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益		+4	+4	-0	固定資産売却益		+7	-2	+3
災害による損失	①	-3	-	-3	災害による損失	①	-3	+28	-3
資産除去債務会計基準適用影響額	②	-	-7	+7	資産除去債務会計基準適用影響額	②	-	+7	-
投資有価証券評価損	③	-6	-0	-6	投資有価証券評価損	③	-6	-6	-6
					受取補償金	④	-	-30	-
					退職給付制度改定損	⑤	-	+66	-

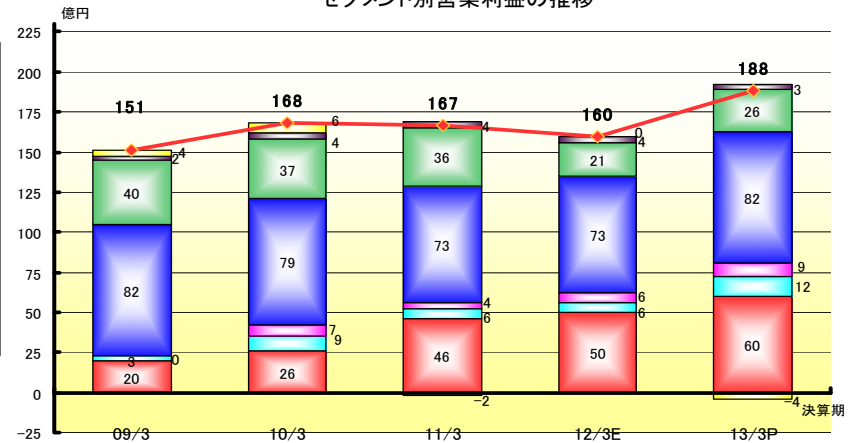
- ① 東日本大震災に伴う特別損失
 ② 資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失
 ③ 株価下落に伴う特別損失

- ④ 区分地上権の設定に伴う特別利益
 ⑤ 退職給付制度の変更に伴う特別損失

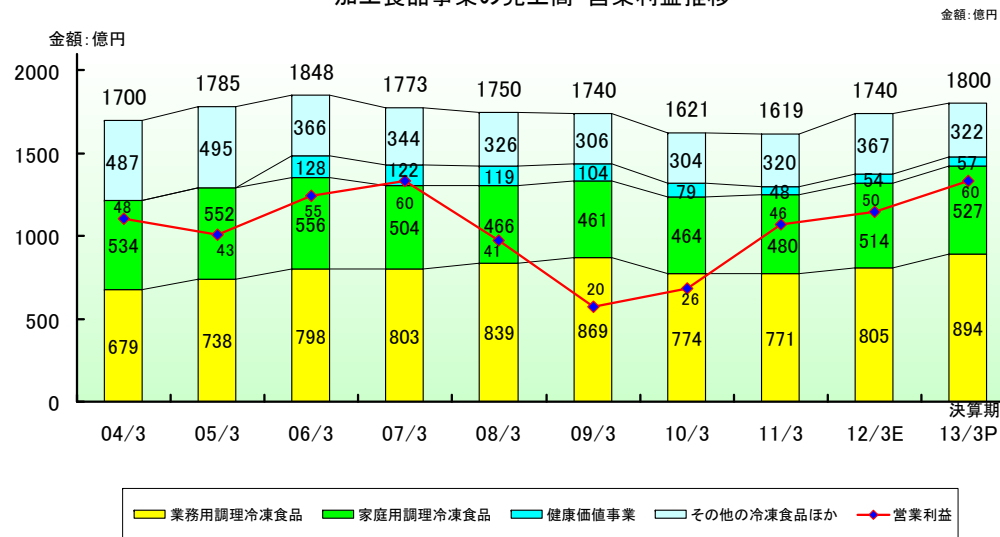
セグメント別売上高の推移



セグメント別営業利益の推移

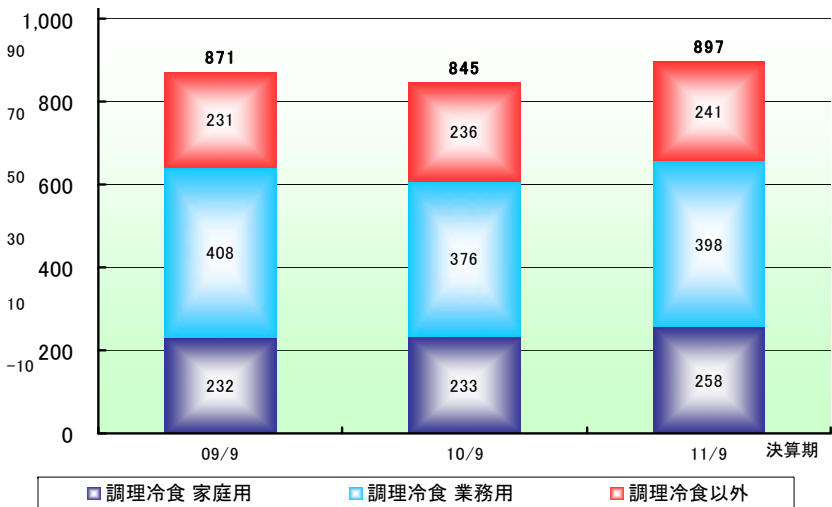


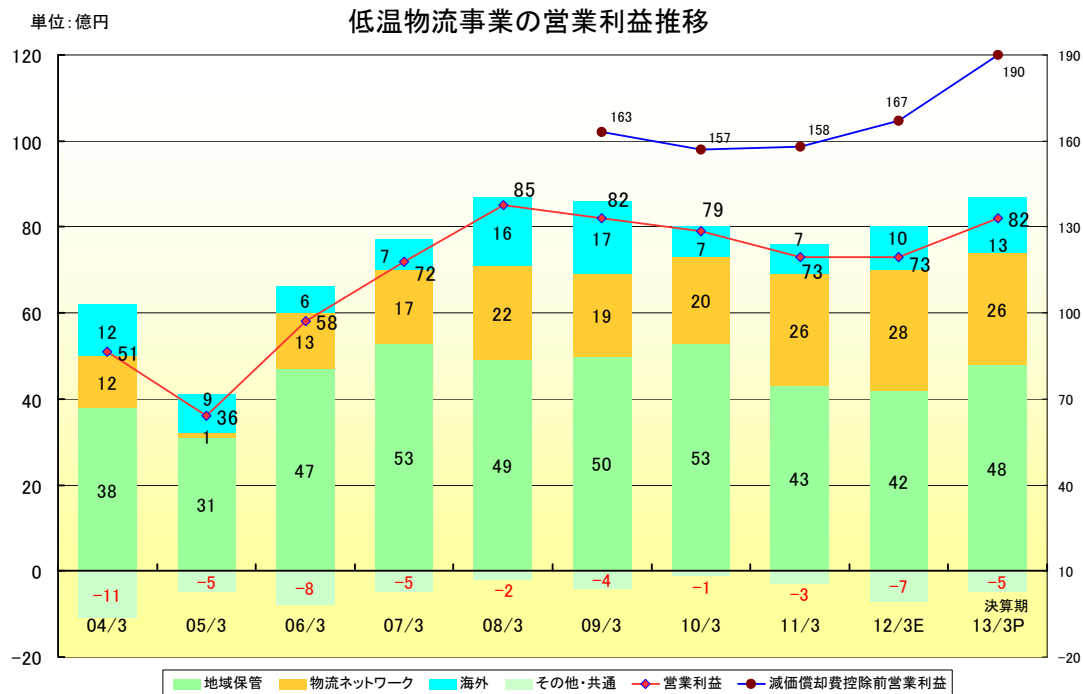
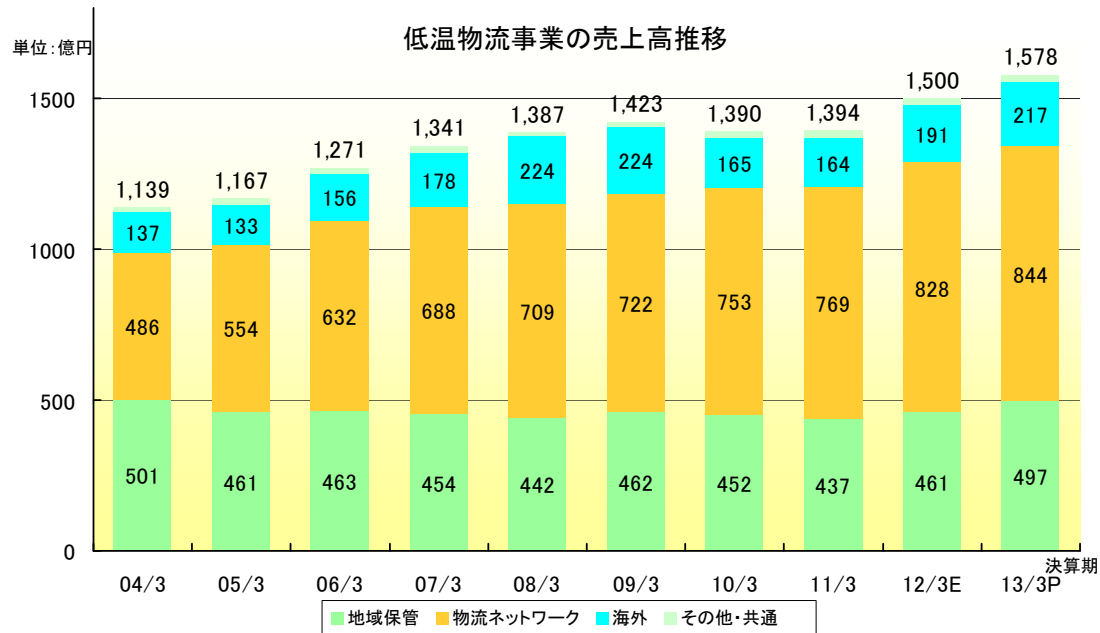
加工食品事業の売上高・営業利益推移



冷凍食品売上高の推移

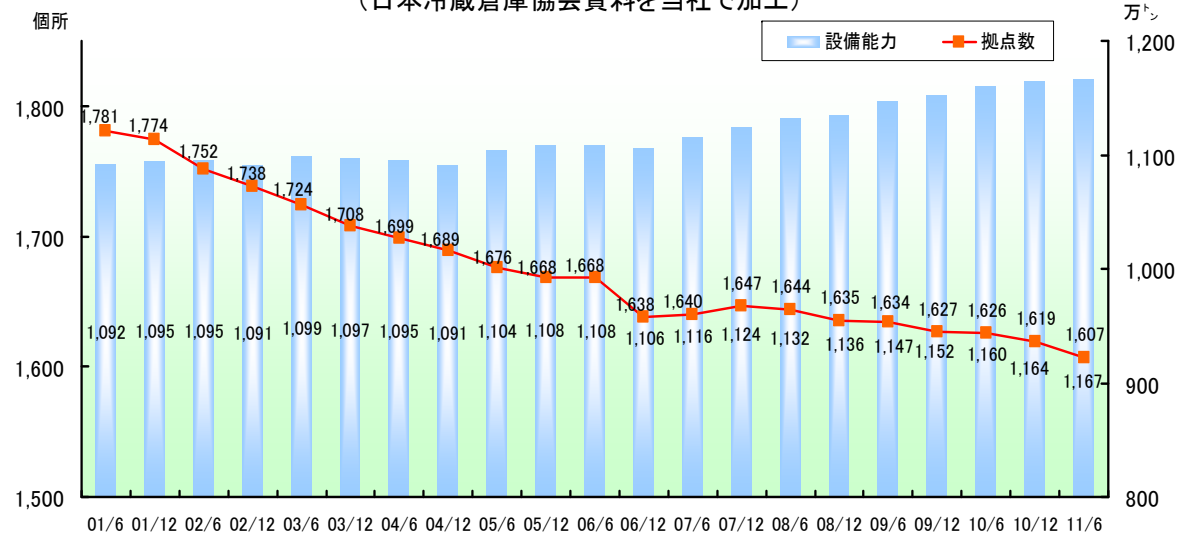
(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



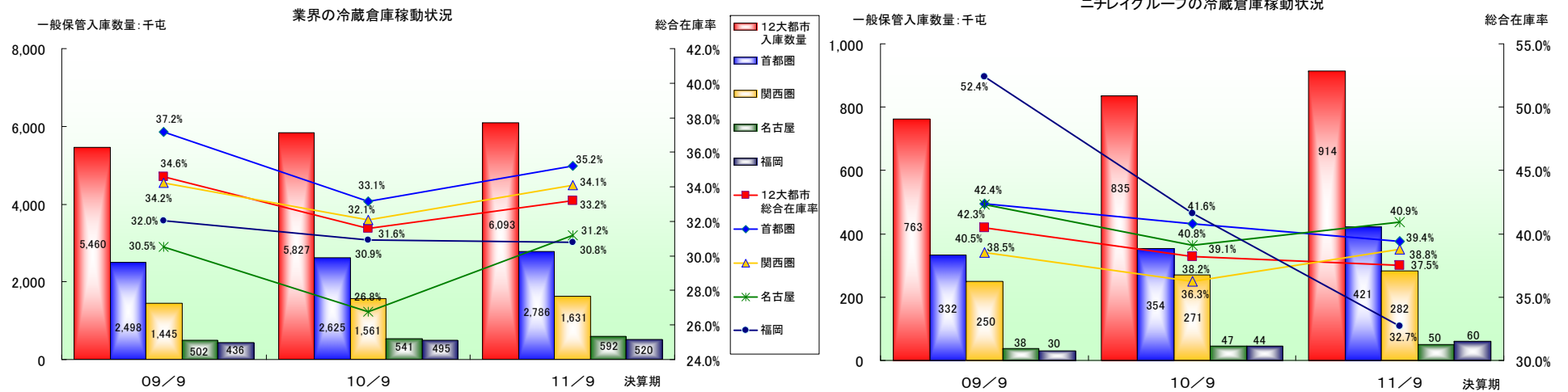


冷蔵倉庫業界収容容積推移

(日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。